

都繪馬鑑 三

~~E~~  
152  
~~3~~

逍遙文庫  
文庫6  
1307  
3





都繪馬鑑三之卷目錄

目錄

土佐坊昌俊之圖

紙園社并旅所之圖

○古代系物之圖

○龍乳舟日傘之圖

○延宝年間芝居例の圖

○役者系屋入の圖

○僧覆面編笠の圖

○骨物之圖

○古代牙僧婦の圖

北野 長谷川等伯画

○横二間壁を間

紙園 孝者不知

○横四間壁一間

○同駕籠の圖

○古代之松海老尾の圖

○同櫓幕の圖

○医師の圖。小枝箱の圖

○女編笠の圖

○糸唐丸行燈の圖

○土弓之圖



○草履愛之圖

○醫結床の図

○婦人芝着之圖

○大和文書在湯殿山狂言之圖

祇園日直清親画  
横一回子 壁一回

○高野山万葉草堂在魚草の鳥

○古代枇杷の果

○六方之圖

○大森長七負兔女圖

清水 子者不画  
横五人 壁一回子  
清水 大岡春卜画  
横二回 壁一回子

都繪馬鑑三之卷

○土佐坊昌俊之圖

北野社繪馬子指く

慶長十二年申六月長谷川等伯画



傳云源判官義経を鑑倉右大将頼朝之代官として。南狩者能頼朝を都より上り本曾義経 朝日軍を以て鑑倉より上りて。宗盛の子 平清盛 たる門督清宗 宗盛を具して鑑倉より上りて。頼朝を義経が軍忠の神速を以て憎み殺す。抗宗を三系時が義経を信用ありて。終に骨肉讐敵の忠心を以て殺す。按朝より内へ入れりて。都より降る。

○頼朝の生得彦を好むの癖あり。抗宗又奸佞して人を殺す癖あり。東鑑に抗宗を佐國の人夜須七郎行宗を殺す言ふ。抗宗夜須と云は。抗宗の抗宗を質に極む。其科代して。鑑倉中の道徳を以て。抗宗の面目を先く事あり。抗宗上を重く。抗宗が義経を評定有る事あり。



慶長拾三戊曆  
六月吉祥日



自雪舟五代  
長谷川法眼等伯筆

奉掛  
御神前



中ノ一







の下地等がわたりし旨の如く、義経の鎧を押寄、固を以て  
 責め、義経其夜を酒を碎り、跡居りしが白拍子舞を習へ  
 き女中、固を以て酒を取出、義経を破れ、  
 あり退散せしむ。皆宿小幡、して居、義経を以て  
 張、と、義経防、辨、を、を、許、を、を、  
 子、欲、押、を、と、と、長、刀、振、て、対、て、  
 固、八、郎、伊、勢、と、郎、飛、井、六、郎、佐、藤、四、郎、  
 四、郎、佐、藤、五、郎、と、郎、飛、來、て、  
 其、力、を、振、て、ち、佐、が、婦、子、を、郎、が、馬、を、切、斃、て、  
 と、人、藏、と、因、り、て、  
 義、経、を、仕、換、一、法、  
 が、谷、小、置、と、を、  
 尾、に、見、せ、し、  
 希、ま、に、生、捕、し、  
 六、条、河、を、  
 中、三

音を分らざる

去法房昌俊二階堂と云、  
 當四針の庄小西金堂御油料あり。代友小河四郎遠大興福寺の  
 律師快馬を借入、年貢所を押し、西金堂より、  
 後を、  
 此神本を振いて、  
 憤、  
 平、  
 心

○因、  
 云、  
 又、  
 又、



子代出立りや。此御古依房を祀ふ所なり。當社を祇園の搦社とて、  
天照大神と素盞鳴尊とを祀ふ所なり。五男と女孫とを生れし  
事代初孫とありて、此の事代初孫とて、

○祇園社并旅所之圖 祇園社繪馬所本指く

延寶四年より

祇園社祭神素盞鳴尊 午頭天王 八王子 五男二女神と祀り 稲田姫  
午頭天王と初之播磨國明石浦小垂跡まゝ後廣寧寺に移り  
攝六田姫路 其後感神院に移り 貞觀十一年始攝六田姫路より遷され  
の西一里より 傳云清和天皇貞觀十八年に疫神宗成依り。万民疾り。日良磨京  
中其男女引く。六月七日十四日疫神を神泉苑に送り。其次の年ま  
疫神宗成り。百姓神輿を神泉苑に送り。其神輿を置  
所を八坂御感神院と云寺あり。神殿あり。故昭宣公御殿と云  
せし神殿あり。是故當社と云舎造あり

別記云貞觀十八年南郡乃田如光小僧ありて、  
傳代安金に親ま寺是なり。今年夏六月十四日天作を東山の  
里に移し。密かに心して式化小僧作を午頭天皇より。い  
乃迎みあり。田如光を祇園林に遷せり。

○扁額本國より西に四葉系松の旅所まで代寫し。延寶  
四年より今もまゝ百四十餘年祇園社を今と遷り

國中中殿の南表西の方階の傍小舎あり。古くは舎やと云う  
出く。諸人の賽物を入し。此舎後より古蹟を納る所ありて久  
幸殿の傍より右に東小の方小移り。今此イニコ小舎をとり  
○物をかくて賽物を入し。其寺社小多くありし。其の傍に今  
七月十日松系の東六の燈皇寺の聖天延よの燈堂の傍より入る物を  
出いて賽物と云ふ。其殘りあり

元三堂の傍小燈堂あり。近世破壊して堂取く。其南門の傍  
小トアリ









清水寺

園中の人物は古風の極ありと  
 似細く、低き髪、高き足、さうかへ  
 故に其一二の泉と  
 別よ出と

園を豊之祿所と今の地に移る時をいふとて一面の河原あり。  
 其祿所を六条祿起一遍上人の傳代又々祿所の北西は四十八箇  
 取乃無をあり。又今の四条に場は一遍上人の傳代をせり。  
 其東加茂川に架け橋あり。其の東に井あり。是祿園社一の多井  
 あり。今其河原祿所は標本を立六月紙をまに新井と建ること  
 一乃を井の  
 園中芝居の俵四条街小例は二槽南例は二槽繩は四条の北は二槽の  
 二槽の幕は名代の後を付し其北芝居より東に北二槽とあり。繩  
 齊の頂も園の如く四条に五槽あり。其後退り減りて只六小例は  
 二槽南例は一槽ありしが寛政六年焼失の後南北二槽とあり。繩  
 は芝居も寛保元年に焼失し絶たり  
 園を古くは名なり。四条街は芝居五ヶ所繩は小二ヶ所。又四条小橋  
 中野町の南例は一ヶ所北例西の恒乃北角は一ヶ所。是を祿所と云ふ。人  
 形芝居は雨蛤と云ふ。又室暦七八年の火より北の恒乃東の  
 南は一ヶ所あり。是を恒乃  
 僅ハ九年やて絶たり





圓山

石鳥居

文政三年  
 石鳥居の南東の  
 上方の地と云ふ  
 東大谷又  
 新道

八坂塔

南谷派

牛王地

古くは...  
 石鳥居の南東の  
 上方の地と云ふ  
 東大谷又  
 新道  
 文政三年  
 石鳥居の南東の  
 上方の地と云ふ  
 東大谷又  
 新道







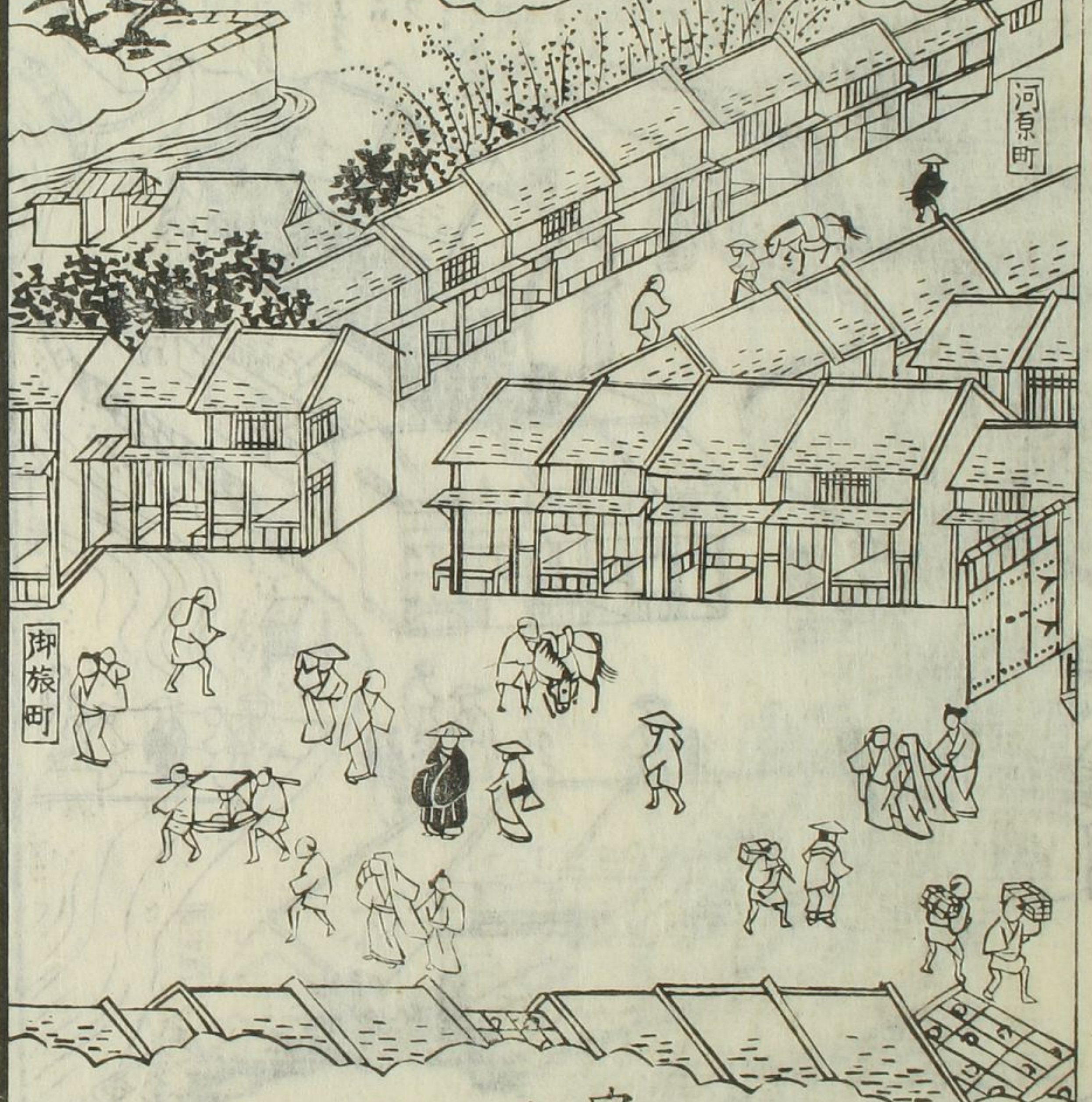






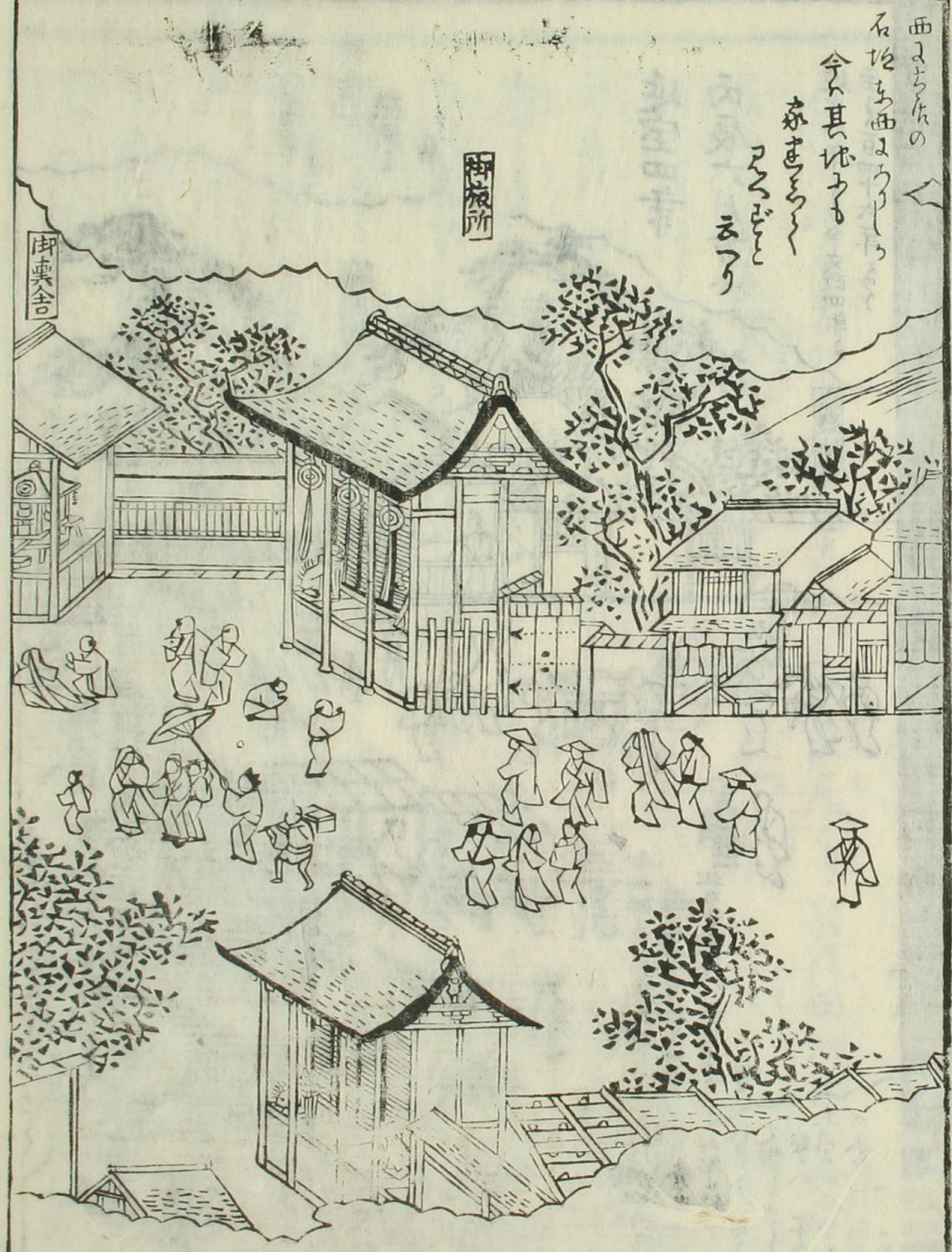


河原町人家の  
 表裏の  
 内介を定る  
 封授する  
 曹皇太后  
 四方の封授  
 とあり  
 後  
 御旅丁通  
 河原町の



宿坊  
 社務  
 執行  
 願中  
 敬白  
 御旅町

西より東の  
 石垣を西より  
 今其地より  
 御旅所  
 云々



御興舎



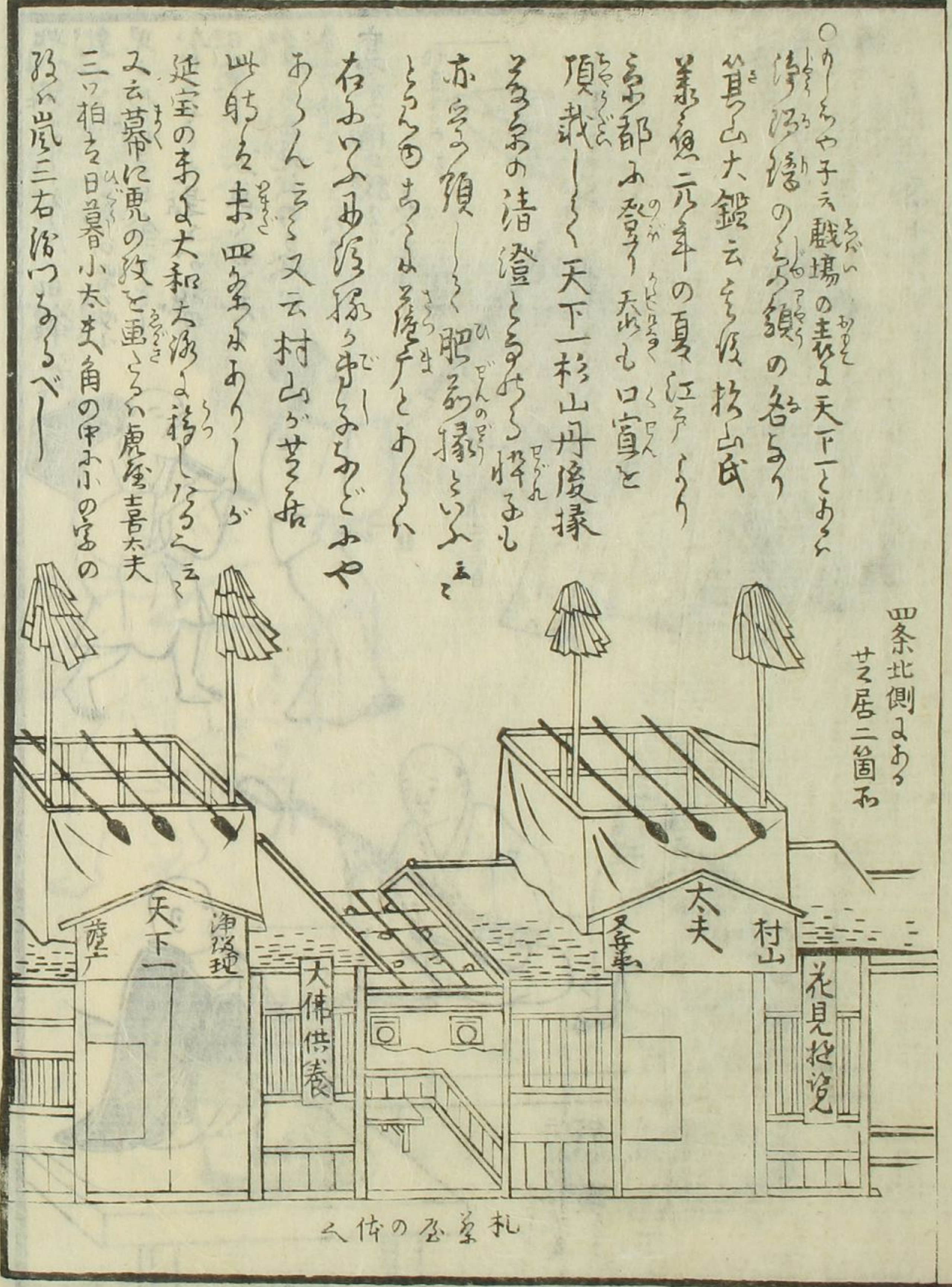
圖中人物乃風姿も今と異なりて地勢も多岐にわたる。祇園所は昔より  
 大和入路を東のより祇園乃地まで家屋もつた。田畑も西例に  
 居あり。今も勢の地もより家屋もつた。建て並べ高橋を  
 新築しけし。戸々中を弦鼓の声流るる。美婦の小娘をとりて  
 南より少よけふとま今を盛とたてて。美器も及ぶ。新ひよ  
 鹿野の董敵都やしていふ。先づとて。人をして。魂を天外よ  
 め。流るる。人狂舞と。信り。明鏡と。あ。細腰も。若。好面を。分。ん。え。を  
 少。は。め。ら。う。と。研。み。め。ら。ふ。は。あ。年。を。め。り。ら。打。連。足。も。四。五。好。ま。あ  
 唱。口。に。弦。を。鳴。く。我。は。あ。の。夏。経。る。時。を。く。新。よ。揚。る。煙。を。星。よ。か。ま  
 一。月。の。あ。の。涼。め。を。加。茂。河。の。両。岸。に。列。座。を。建。出。く。は。あ。ま。の。休。れ。に  
 多。く。花。を。あ。め。は。い。ひ。彼。れ。解。冷。風。を。振。り。暑。を。避。け。流。を。泳。ぐ。は  
 従。て。我。の。更。も。と。も。知。れ。靴。鞆。の。噴。响。何。の。曲。を。も。こ。こ。細。工。物。と。て。幾。千











のりちや子云 戯場のまは天下とあり  
 浄瑠璃のくまの銀の各あり  
 其の山大銀云々後村山氏  
 義経魚元平の夏江戸より  
 京都ふ登り 天竺も口宣と  
 頂戴し〜天下 杉山丹後掾  
 さらあおの清澄とあはる 梓子も  
 亦さう頂〜 肥後掾といふと  
 くらんあ〜も後戸とあり〜  
 右よりふゆ後掾とあり〜あ〜あ  
 あ〜ん〜又云 村山がせき姑  
 此時を未 四多あり〜が  
 延宝のあ〜大和太海〜移したる〜云  
 又云 昔帯に鬼の紋と画〜る 虎を喜太夫  
 三ツ拍を日暮小太夫角の中ふ小の字の  
 羽い嵐ニ右浴つゝあ〜べ〜

四条北側よあり  
 廿二居二箇あり

札屋の伝人



小狭お持〜の  
 け〜ん〜の  
 入持た〜  
 子〜  
 子〜

役者の  
 ぐ〜の  
 舟屋入の  
 仲〜

縄を通〜る  
 廿二の図  
 布衣の屋  
 梅〜  
 梅〜

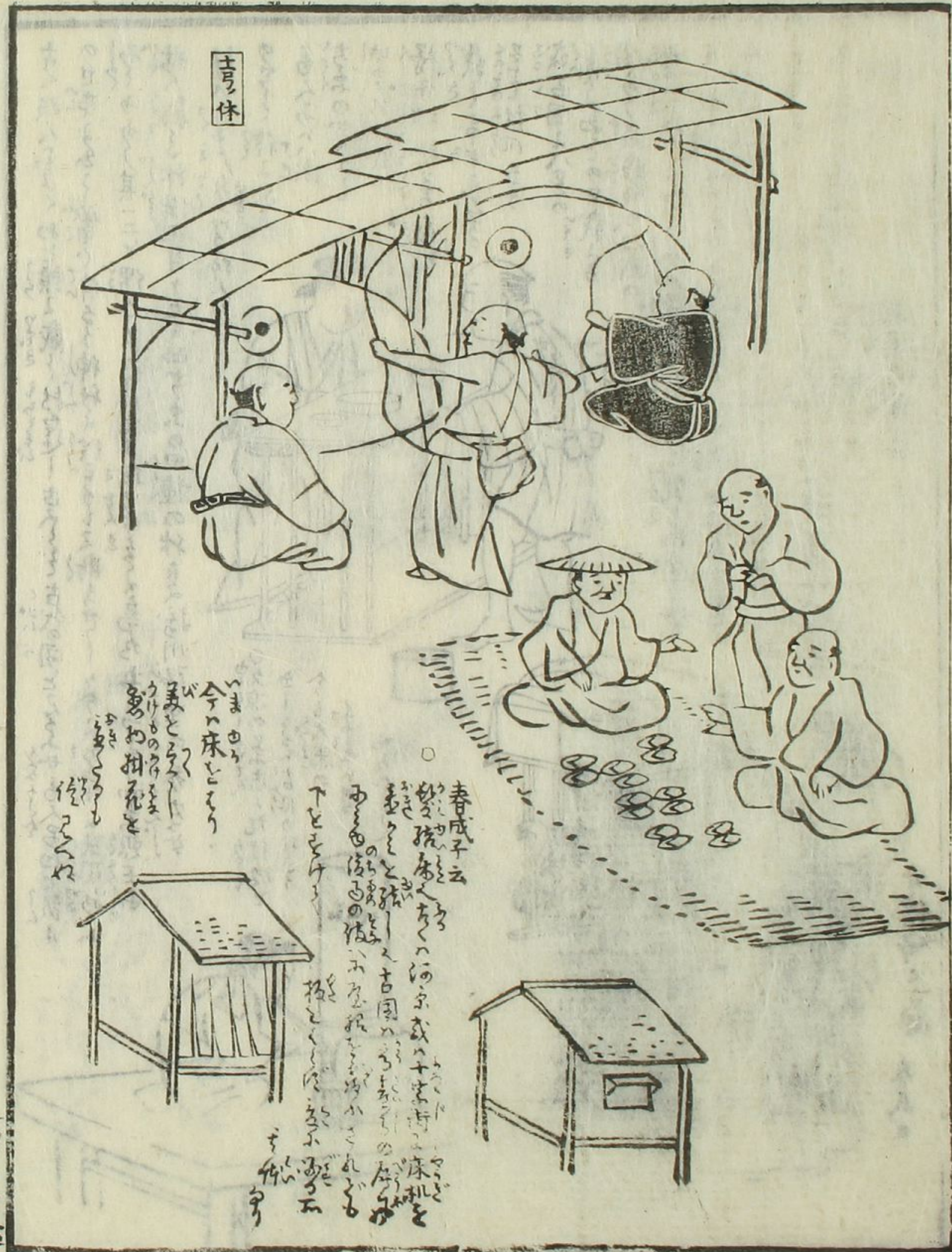
白〜  
 二箇  
 廿二の内

梅〜









今床を  
美とす  
象お掛  
と  
今床を  
美とす  
象お掛  
と

春成子云  
此は  
今床を  
美とす  
象お掛  
と

延宝の頃の婦人多く編笠竹の皮笠を被りゆきの下より一匂の布を載  
其上に笠を被り元禄の末より毛布を被り或は布を笠に付てさる  
ゆあり毛布の面をくさん料あるべし今も哥比丘尼は此風はくくも

古の婦人の姿をさるる中細く衣服は  
船中へく上りの襦袢は右の左の袖をさるる  
婦人の威儀最斯首をさるる今人の姿を  
み及し羊巾の尻さる九寸餘り胸より股にかけて  
重気あるは巴の尻の大ききと云ふ人あり  
脊の短小と婦人の歩行を疑ふはどよよと  
己若し衣服は下前の襦袢を半に折る一は  
破くさるるありしは未だも脚布を大に出し  
股の白とを乳と足下とを傷と婦人の  
形勢不敬と僧人に死を告ぐと引搦て歩行  
業し仙人の天上より墮するものあり



あつちらるるもあつちらるる







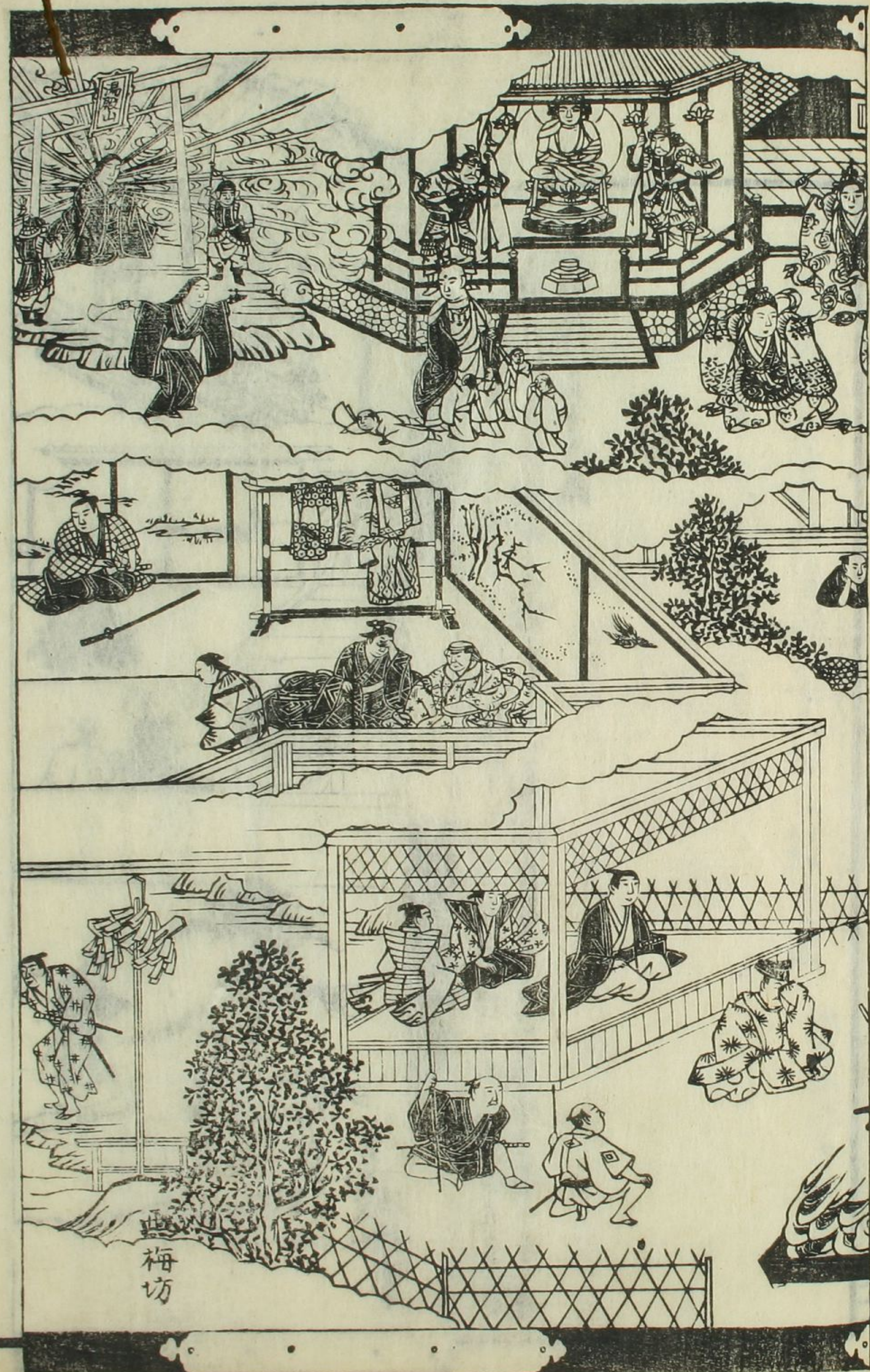
今に如く小倉堤と豊長大岡の時より始る此大和を乃繩より紙園と  
き耕作の地なり。繩より紙園と移る人々を後里の西門よりより  
より古老傳りて。寛永の頃此堤下畠地なり元結を修る事なれば  
有る堤の上より修りてより繩より元結と移る今も此を街の名也  
といふ事なり。堤中より大和河原に大和ありは後里の井あり  
或時と初進相撲の小屋に接し又後里居もありぬ寛永正徳乃  
頃四条の北東より比叺拾斗比長屋を建ぬ昔も根行意本の  
口は接し奥の一角す汁邊付の日本屋あり。軒中を後色深の水  
引暖房屋と掛長く四角より大和燈を意に揚ぐこれより水名を記  
し。寛永初年と並に寛永の頃此大和を乃繩より紙園と移る事なれば  
此店より他所より移る事あり。紙園の地は人の家多しに建  
を拓く人渾名して當業屋と云ふ。秋も此より移る事あり。渾

名も此より其女の衣を金中本傳小橋様或は入時名を記す  
一の地物に付たり。此店に或は秋永の比僅二と記す。今の一  
に記す。此店に或は秋永の比僅二と記す。今の一  
あつといふ酒を記す。今より如く繁花の地と記す。此店に或は秋永の比僅二と記す。今の一  
畠の地より水を建末右所。畠永河新橋通新門前古門は等々の町と記す。  
四条より南に東通。此の地に建仁寺あり。西を河原より夫社其南に  
方に大倉の町あり。此大倉の町は後里の町なり。後里の町は建仁寺の  
西の野に後里の町あり。享保の頃より遊りて此大倉の町に建仁寺町宮川  
町。東に恒町と云ふ。此恒と東の南より。四条の北東町計まで。此新河原町と云  
ふ。此恒町と云ふ。此恒と東の南より。四条の北東町計まで。此新河原町と云  
人は此恒町と云ふ。此恒と東の南より。四条の北東町計まで。此新河原町と云  
先斗の町。此恒と東の南より。四条の北東町計まで。此新河原町と云

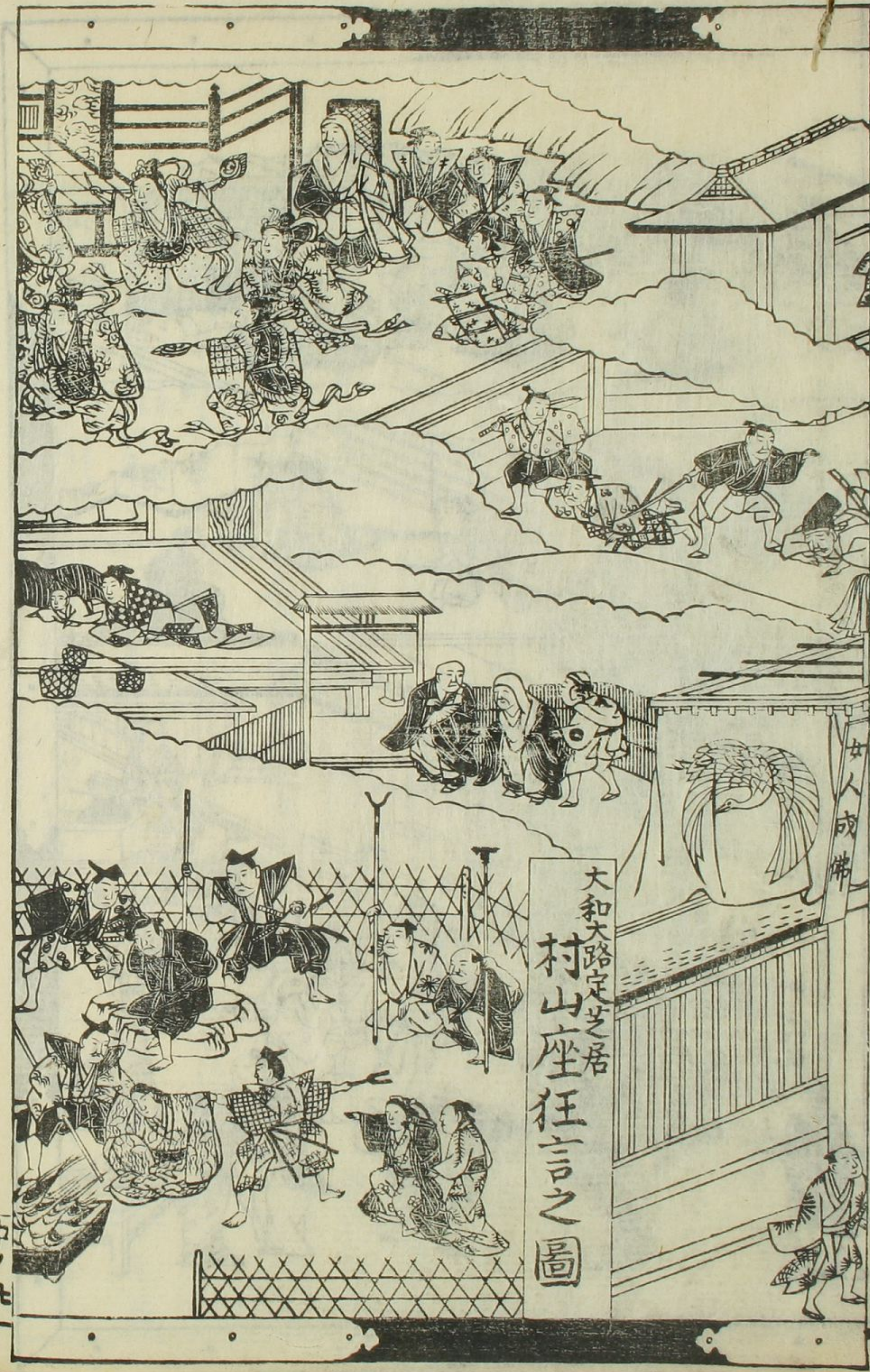








梅坊



大和路定之居  
村山座狂言之圖

中ノ光



































延享三丙寅年秋九月下浣

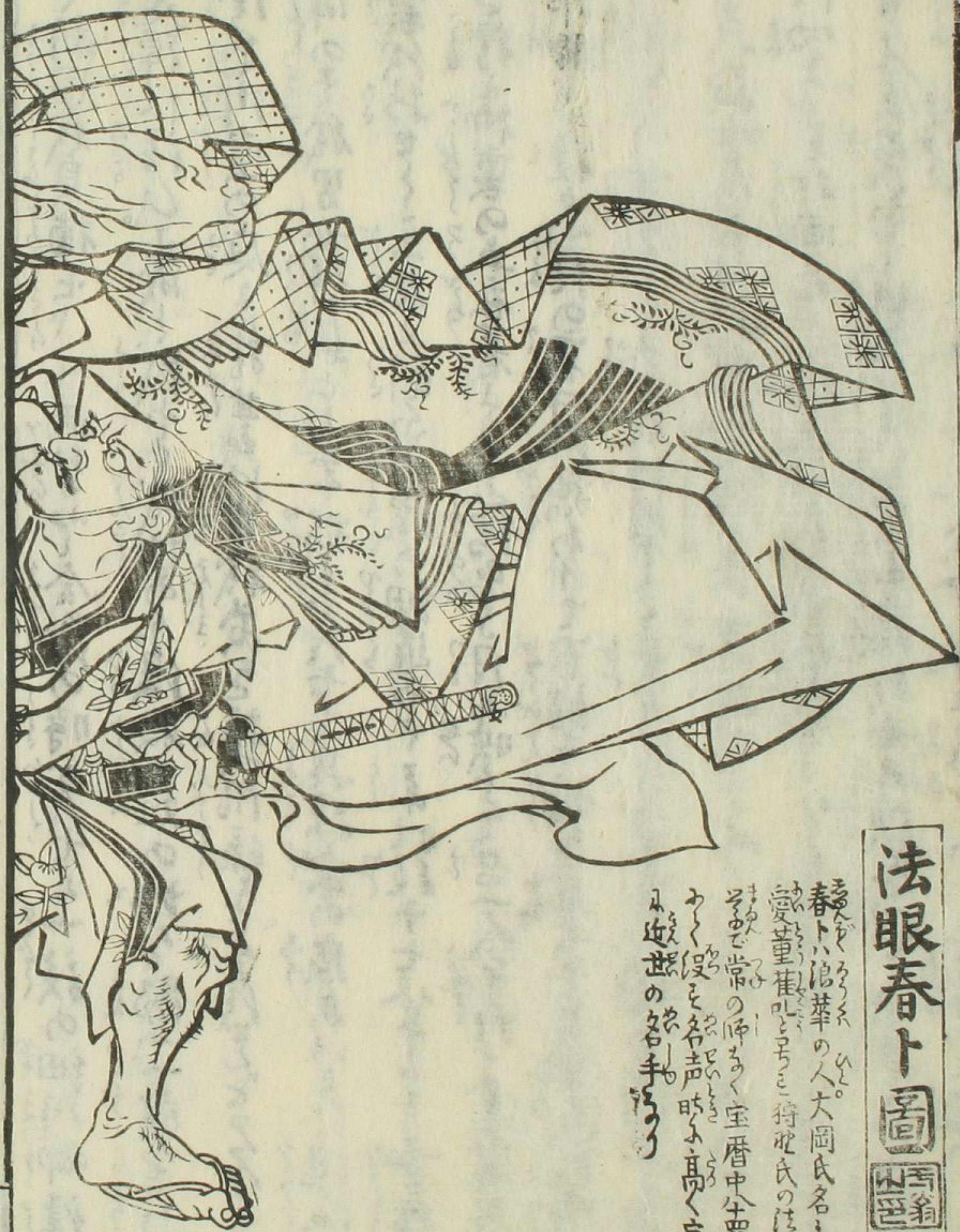
大坂

願主中村七良兵衛

宿坊 成就院



中二十九



法眼春卜圖



春卜ハ浪華の人。大岡氏名を  
愛童重桂と云ふ。持世氏の法を  
その常の師とす。宝曆中牛馬殿  
やくはと各声時高く実  
は此世の名手なり







